

カンキツの脱酸剤

我々若い時分、カンキツにはヒ酸鉛をかけてはならないと教わっていた。それはカンキツにヒ酸鉛をかけると、酸味がなくなって、味がぼけてしまうからである。従ってハマキムシなど、なかなか直接虫体に薬を附着させることの困難な害虫防除に、消化中毒剤の王様とも言ふべきヒ酸鉛が使えないことは誠に痛手であった。

ところが、比較的近年になって「甘夏」と言う夏ミカンの枝変わり品種が出て、酸味が少ない点が受けたのか、相当な市場性を生じ、これに對抗して普通の夏ミカンにヒ酸鉛をかけて酸味を脱き、「ネオ夏」の名において市場に現われた。夏ミカンが酸っぱくあるべきか酸っぱくない方がよいのかは議論のある所ではあるが、これまた相当な市場性を獲得したことは事実である。

然るに農薬の慢性毒性の問題がやかましくなり、この4月1日から、ヒ酸鉛は夏ミカンに対し、果実の収穫が開始される日の150日前から収穫の終わるまで散布してはならないことになった。そうするとヒ酸鉛に替わって、夏ミカンの酸味を脱き、しかも慢性毒性の殆んどない脱酸剤が必要となってきた。

「甘夏」品種の栽培の難易、適地の選択等の問題はあったとしても、この品種も普及して行くであろうし、その普及の速度と新脱酸剤開発普及の速度との比較において、慢性毒性のないことを証明するために多額の研究費を投ずべきかどうか、「ネオ夏」の有利性を余程慎重に検討して、新脱酸剤の開発に取りかゝる必要があるような気がする。

(日本植物調節剤研究協会会長 河田 党)

目 次

— 第5巻第1号 —

稲作転換対策の基本的方向について	2
1. 稲作転換の必要性	2
2. 稲作転換の基本的方向	2
3. 転作の計画的実施	3
4. 転作経営の定着化の方向	4
5. 稲作転換推進のための対策	4

農林省稲作対策推進事務局

飯 村 宏 樹

昭和45年度落葉果樹関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要	6
I 除草剤	7
II 生育調節剤	9

農林省園芸試験場 内 田 忠 雄

昭和45年度ミカン関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要	12
A ミカン関係除草剤	12
B ミカンに対する生育調整剤	16

農林省園芸試験場興津支場 広瀬和栄

昭和45年度リンゴ関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要	
A 除草剤	17
B 生育調節剤	20
農林省園芸試験場盛岡支場 久保田貞三	
植調協会だより	22

新年度を迎え、装いを新たにしてデビューいたしました。よろしくお願いします。